



医療法人社団 唱和会

明野中央病院



# 2012年度 事業報告書 vol.6

(2012年4月～2013年3月)





## 病院理念

医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める

## 基本方針

- 一．家庭的な優しい医療・介護の実施に努めます
- 一．地域の皆様から安心・信頼される病院づくりに努めます
- 一．患者さんひとりひとりの権利を尊重するように努めます
- 一．たえず医療・介護の質の向上に努めます
- 一．地域の健康増進・病気の予防に努めます

## ご 挨拶



院長 木下 昭生

昨年末から政権交代した自民党の安倍政権によるアベノミクスにより、日本経済はいくらか好転の兆しを見せております。しかし、長期的に見るとわが国は、どの先進国と比較しても約930兆円という信じられないような高額の債務をかかえており、大きな課題を背負っています。そのため、新政権でも社会保障費の切り詰めが容赦なく進みそうです。早くも、次期の診療報酬や介護報酬の改定で、病院の機能分化の見直しや介護保険からの要支援の切り捨て等が行われるという話が聞かれています。“医療から介護へ、病院や施設から在宅へ”という言葉の響きは良いのですが、一つ方向を誤ると、これらの政策は、医療機関や介護施設のみならず、患者さんや国民に多くの不利益をもたらしかねません。患者さんや国民にしっかりとインフォームドコンセントを行い、国民の意見を真摯に聞いたうえで実施してもらいたいと思います。

さて、当院では、昨年9月に藤川こつ・かんせつ・リウマチセンター長を始め、病院スタッフが関節リウマチの患者さんの『スイスに行こうプロジェクト（明野クララ元気ツアー）』を支援させていただきました。参加された患者さんには大変喜んでいただきました。また、このことが、KBS京都ラジオの看板番組“ばんざい人間”に取り上げられました。全国的にも関心を持っていただき大変うれしく思います。秋には、明野アクロスホールで恒例の健康セミナーを開催し、健康診断を実施し多くの地域の皆様に参加していただきました。

昨年1年間の当院の歩みをまとめた年報が完成しました。明野クララ元気ツアーについても中でふれております。当院の今の状況が少しでもご理解いただければと思います。ご一読いただければ幸いです。



## 目 次

地域交流会（ふくろうの会）	1
ボランティアの会	3
病院概要	5
病院沿革	7
創設者 中村裕について	8
職種別職員数	8
組織図	9
年間行事	10
明野中央病院健康セミナー	13
明野クララ元気ツアー	17
コラム	27
花日記 ～2階ウッドデッキから～	28
今昔写真館	31
部門報告	
<医療安全管理室>	34
<地域医療連携室>	35
<こつ・かんせつ・リウマチセンター>	36
<診療部>	
内科	37
消化器内科	39
整形外科	40
麻酔科	43
診療情報管理室	44
<医療技術部>	
薬剤科	45
栄養科	46
リハビリテーション科	48
放射線科	52
臨床検査科	56
臨床工学科	60



＜看護部＞	
看護部	6 1
外来	6 3
2階病棟	6 5
3階病棟	6 7
手術室	6 9
＜事務部＞	
事務部	7 2
医療事務課	7 3
情報システム管理課	7 4
委員会報告	
＜委員会＞	
医療事故防止委員会	7 6
感染対策委員会	7 9
褥瘡・栄養対策委員会	8 1
サービス向上委員会	8 2
教育委員会	8 3
＜その他＞	
N S T（栄養サポートチーム）	8 4
糖尿病相談会	8 6
親和会	8 7
新聞報道	8 9
新入職員 1年を振り返って	9 4
入職 5年を振り返って	9 5
入職10年を振り返って	9 7



－ 表紙の写真 －

**Memories of Tomoko**

本誌 27 ページのコラムに書かれている「ともちゃん」のご家族から寄贈していただいた白いフクロウの置物。待合室に飾って「ともちゃん」を偲んでいます。

## 地域交流会（ふくろうの会）

### 1. 設立目的

当院は、病院理念に「医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める」を掲げ、地域の皆様から安心信頼される病院作りを目指し日々努力しております。さらに今後も真に地域に根ざした医療機関として皆様方の期待に応えられる病院としてのあるべき姿を模索しております。

そこで、広く地域の皆様方と意見交換を行い、医療全般に関する苦情、要望、地域の病院として当院の果たす役割等についてご意見を頂きたく設立しました。

2004年9月発会。

### 2. メンバー 2013年3月現在（敬称略）

湯田 国男（ふくろうの会会長・明野さつき町自治会長）

中山 満（明野日の出町自治会長）

岩崎 祐一（明野高尾自治会長）

首藤 和也（明野東町自治会長）

小柳 義明（明野旭町自治会長）

飛河 克子（日本リウマチ友の会大分支部長）



## 第14回 明野中央病院・地域交流会（ふくろうの会）

2012年9月12日(水) 12:30～13:30

1. 院長あいさつ
2. 昼食
3. 明野クララ元気ツアー報告
4. 日本看護協会 認定看護管理者を取得 ～看護部長 鈴木京子～
5. 日本リウマチ財団登録 リウマチケア看護師資格を取得 ～外来 看護主任 佐藤美津子～
6. 大分県理学療法士学会にて『優秀賞』受賞 ～リハビリテーション科 理学療法士 穴見尚樹～
7. 大分高等学校美術専攻クラス作品展を開催中
8. 当院の近況報告
  - 第5回 新春明野寄席 1月 7日
  - 第2回 リハビリテーション研修会 2月 9日  
～福祉機器の活用と住環境の改善～
  - 日本医療マネジメント学会 3月 3日  
第12回大分県支部学術集会にて発表
  - 第28回 糖尿病相談会 ～糖尿病に対する運動療法～ 3月 3日
  - ネイルアートのボランティア 3月 9日
  - 看護の日 ～中学生一日看護師体験～ 5月12日
  - 第9回 ガーデンティーパーティを開催 5月18日
  - 女性講座・高齢者大学講演  
～「肩・肘・腰・膝」の痛み予防と対策～ 6月 5日
  - 第29回 糖尿病相談会 ～糖尿病の食事療法～ 6月 9日
  - 中学生職場体験 7月 4～5日
9. 明野中央病院健康セミナーについて
10. ご意見交換
11. 湯田会長あいさつ

### ※出席者（順不同）

湯田 国男 様（ふくろうの会会長 明野さつき町自治会長）  
中山 満 様（明野日の出町自治会長）  
岩崎 祐一 様（明野高尾町自治会長）  
小柳 義明 様（明野旭町自治会長）  
飛河 克子 様（日本リウマチ友の会大分支部長）

### ※当院出席者

木下院長、中村副院長、藤川こつ・かんせつ・リウマチセンター長  
鈴木看護部長、池田看護副部長、里谷事務長、安部総務課長



## ボランティアの会

### 1. メンバー 2013年3月現在（敬称略）

会長 志水 篤信

副会長 赤田 久代      田代 千枝

加来 邦子      倉住 れい子      小柳 巴      坂井 礼子      佐々木 友江

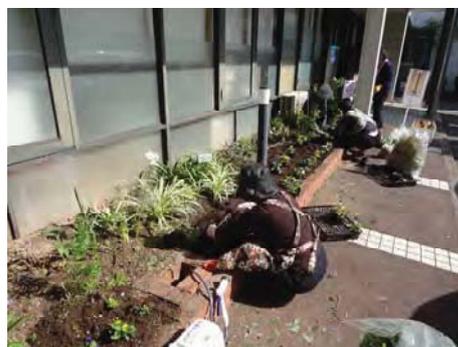
高平 潤子      高木 美和      三宮 麗子      石田 洋子

### 2. 活動内容

- ・グリーンボランティア      ・各種イベント企画      ・クリスマス会
- ・ガーデンティーパーティー      ・講演会手伝い等



活動報告会



花壇の植え替え



一日看護師体験



ガーデンティーパーティー





## 第12回 明野中央病院ボランティア懇談会

2012年11月2日(金) 12:30~13:30

1. 院長あいさつ
2. 昼食
3. 明野クララ元気ツアー報告
4. 日本看護協会 認定看護管理者を取得 ～看護部長 鈴木京子～
5. 当院の近況報告
  - ①第8回 ガーデンティーパーティ 11月11日
  - ②クリスマス会 12月 3日
  - ③第5回 新春明野寄席 1月 7日
  - ④ネイルアートボランティア 3月 9日
  - ⑤看護の日 ～中学生一日看護師体験～ 5月12日
  - ⑥第9回 ガーデンティーパーティ 5月18日
  - ⑦女性講座・高齢者大学講演 6月 5日
  - ⑧中学生職場体験 7月 4-5日
6. 大分高等学校 美術専攻科クラス作品展
7. ワイルドライフアート
8. 明野中央病院 健康セミナー
9. 回復期リハビリテーション病棟とは
10. ご意見交換
11. 志水会長ごあいさつ

### ※出席者(順不同)

志水 篤信様  
赤田 久代様  
田代 千枝様  
佐々木 友江様  
加来 邦子様  
高木 美和様  
倉住 れい子様  
石田 洋子様

### ※当院出席者

木下院長  
中村副院長  
藤川こつ・かんせつ・リウマチセンター長  
鈴木看護部長  
里谷事務長  
安部総務課長



ワイルドライフアート



粘土で作りました。



## 病院概要 (2013年3月現在)

診療科目	内科／整形外科／リウマチ科／消化器内科 形成外科／リハビリテーション科／麻酔科（森正和）
病床数	75床（一般） 2階病棟 一般：45床（亜急性期病床10床含む） 3階病棟 回復期リハビリテーション病棟：30床
研修施設	日本整形外科学会研修施設 日本手外科学会研修施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本高血圧学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設
学会認定 専門医・指導医	日本内科学会 専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医 日本整形外科学会 専門医 日本脊椎脊髄病学会 指導医 日本手外科学会 専門医 日本リハビリテーション医学会 指導医 専門医 日本リウマチ学会 指導医 専門医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医 日本神経学会 専門医 日本麻酔科学会 専門医 日本集中治療医学会 専門医



施設基準

7 : 1 入院基本料  
診療録管理体制加算  
医師事務作業補助体制加算  
急性期看護補助体制加算  
退院調整加算  
救急搬送患者地域連携受入加算  
病棟薬剤業務実施加算  
回復期リハビリテーション病棟入院基本料 1  
亜急性期入院医療管理料  
入院時食事療法(I)  
糖尿病透析予防指導管理料  
外来リハビリテーション診療料  
ニコチン依存症管理料  
薬剤管理指導料  
在宅時医学総合管理料又は特定施設入居時等医学総合管理料  
検体検査管理加算(II)  
CT 撮影及びMRI 撮影  
外来化学療法加算 I  
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)  
運動器リハビリテーション料(I)  
呼吸器リハビリテーション料(I)  
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術  
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術  
輸血管理料 II  
輸血適正使用加算  
麻酔管理料  
がん治療連携指導料  
別添 1 の「第 14 の 2」の 1 の(2)に規定する在宅療養支援病院



## 病院沿革

1974(昭 49)1 月	医療法人社団恵愛会 大分中村病院の分院として開院。(病床数 65 床) 同時に『救急指定病院』『労災指定病院』の指定取得
1978(昭 53)11 月	『医療法人社団唱和会 明野中央病院』として、分離独立
1997(平 9)3 月	社団法人日本整形外科学会認定医制度による『研修施設』認定取得
1999(平 11)5 月	第一期増築工事完成 (病床数 70 床) バイオクリーンルーム設置 ヘリカル CT 設置
1999(平 11)7 月	身体障害者福祉法第 19 条の 2 の規定による『更生医療を担当する医療機関』の指定取得
2002(平 14)年 6 月	第二期増築工事完成 (病床数 75 床)
2002(平 14)年 7 月	MRI 設置
2002(平 14)年 9 月	パワーリハビリテーション機器導入
2004(平 16)年 1 月	一般病床 45 床、特殊疾患療養病棟 (30 床) に変更
2004(平 16)年 3 月	『臨床研修病院』指定取得 (厚生労働大臣指定)
2005(平 17)年 9 月	一般病床のうち、8 床を『亜急性期入院医療管理料』として届出
2005(平 17)年 10 月	日本医療機能評価機構 認定取得
2006(平 18)年 4 月	『亜急性期入院医療管理料』を 8 床から 10 床に変更 院外処方箋発行開始
2006(平 18)年 9 月	マルチスライス CT 設置
2007(平 19)年 2 月	特殊疾患療養病棟 (30 床) を回復期リハビリテーション病棟 (30 床) に変更
2008(平 20)年 1 月	日本手の外科学会 基幹研修施設に認定
2008(平 20)年 10 月	回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (重症患者回復病棟加算)
2009(平 21)年 7 月	『こつ・かんせつ・リウマチセンター』開設
2009(平 21)年 11 月	『日本リハビリテーション医学会 研修施設』に認定
2010(平 22)年 4 月	『日本高血圧学会 高血圧認定研修施設』に認定 『日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設』に認定
2010(平 22)年 9 月	『日本リウマチ学会教育施設』に認定
2010(平 22)年 10 月	日本医療機能評価機構 Ver.6 更新



## 創設者 中村裕について

創設者 中村 裕（1927年～1984年）



1951年	九州大学医学部卒業 同大学整形外科医局に入局
1960年	英国ストーク・マンデビル病院に留学
1961年	第1回大分県身体障害者体育大会を開催
1964年	東京パラリンピックの日本選手団長を務める（以降、1980年までの全ての夏季パラリンピックの団長を務める）
1965年	大分県別府市に、障がい者の自立を目的とした「社会福祉法人 太陽の家」を設立
1975年	第1回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会（フェスピック）開催
1981年	第1回大分国際車いすマラソン大会の開催に尽力
1984年	死去 享年 57

当院は、1974年1月に創設者であり前理事長である中村裕により開設されました。中村裕は、日本ではまだ「リハビリテーション」という言葉も普及していなかった昭和30年代に当時の医療先進国イギリスに渡り、最新の医療事情、特に障がい者の社会復帰のためのリハビリテーションと障がい者スポーツを学びました。その経験を日本に持ち帰り、1965年に障がい者の社会復帰を支援する社会福祉法人「太陽の家」を創設しました。整形外科の医師としては、大分中村病院（1966年12月）と明野中央病院という2つの病院を開設し、障がい者スポーツの分野では、東京パラリンピックや極東・南太平洋障がい者スポーツ大会（フェスピック）などの開催に尽力しました。1981年の国際障害者年を記念して中村の提唱により始まった「大分国際車いすマラソン大会」は、すでに長い歴史を刻み、今では世界最高レベルの障がい者スポーツ大会として世界中の車いすアスリートの目標となっています。

## 職種別職員数

136名

（2013年3月31日現在）

医 師	7名	診療放射線技師	3名
薬 剤 師	3名	臨床検査技師	4名
看 護 師	54名	臨床工学技師	1名
准 看 護 師	12名	管理栄養士	1名
看護業務補助者	15名	医療ソーシャルワーカー	1名
理学療法士	11名	事務職員	17名
作業療法士	5名		
言語聴覚士	2名		



# 組織図

2013年3月31日





## 年間行事

2012年 4月 ○親睦会

2012年 5月 ○中学生一日看護師体験  
○第9回 ガーデンティーパーティ



中学生1日看護師体験



ガーデンティーパーティ

2012年 6月 ○防災訓練  
○第7回 ボーリング大会  
○感染対策研修会

2012年 7月 ○明野中学職場体験  
○医療安全対策研修会



明野中学職場体験



医療安全対策研修会

2012年 8月 ○慰霊祭  
○NST研修会



- 2012年9月
- 医療倫理研修会
  - 第14回 ふくろうの会
  - 大東中学職場体験
  - 職員旅行



大東中学職場体験



職員旅行(東京)

- 2012年10月
- 感染対策研修会
  - 院内研究発表会



感染対策研修会



院内研究発表会

- 2012年11月
- 第12回 ボランティアの会
  - 第10回 ガーデンティーパーティ
  - 明野中央病院健康セミナー
  - 医療安全対策研修会
  - 防災訓練



防災訓練



2012年12月 ○附属中学職場体験  
○忘年会

2013年1月 ○新春明野寄席



附属中学職場体験



新春明野寄席

2013年2月 ○医療ガス・労働安全研修会

2013年3月 ○接遇研修会  
○病院総会



接遇研修会



病院総会

# 明野中央病院健康セミナー

## 健康チェック体験フェアを開催

11月11日(日)あけのアクロスタウン3階アクロスホールにて、恒例となりました「明野中央病院健康セミナー」を開催しました。今年のテーマは“健康チェック体験フェア”とし、会場内に血圧測定や骨密度測定、肺活量測定や体力測定などのブースを設け、参加者の方々に実際にそれぞれの検査を体験していただきました。

当日は、まず始めに木下院長が「自分で守ろう、自分の健康」と題して講演を行い、特に血圧を測ることの大切さと正しい測り方などについて説明しました。続いて、中村副院長が「首、肩、腰、膝、お元気ですか?」と題して講演を行い、腰痛や膝痛の予防と対策などについて説明しました。

**明野中央病院 健康セミナー**

# 健康チェック体験フェア

**日時** 平成24年11月11日(日) 13:00~16:00

**場所** あけのアクロスタウン 3階アクロスホール

**参加費** 無料(どなたでも入場できます)

整理券をお配りしています。整理券は明野中央病院受付・明野地区自治会連合会・明野校区公民館・あけのアクロスタウン総合案内で配布しています。

※1回の検査時間が長いものや、希望者の多い検査については人数制限をする場合があります。  
※裸足で測定するものもありますので、着脱しやすい靴や、体力測定などもありますので、動きやすい服装でお越しください。

**ぜ〜んぶ回ってカラダの総点検!**  
自分の体のこと、どれだけ知っていますか? 血圧や肺活量、骨密度など、自分の体の状態を知って、健康作りに活かしましょう。

### 健康チェック体験会

● 視力測定	● 血管年齢測定	● 肥満度測定
● 握力測定	● 体のバランス・柔軟性測定	● 体力測定
● 血圧測定	● 脳年齢測定	● ココモ(首・肩・腰・膝)の健康チェック 他
● 血糖測定	● 内臓脂肪・メタボ測定	
● 骨密度測定	● 栄養・カロリー・塩分測定	
● 肺年齢測定	● ニコチン依存度測定	

※1回の検査時間が長いものや、希望者の多い検査については人数制限をする場合があります。  
※裸足で測定するものもありますので、着脱しやすい靴や、体力測定などもありますので、動きやすい服装でお越しください。

### 医療講演会

**自分で守ろう自分の健康**  
明野中央病院 院長 木下昭生

**首・肩・腰・膝、お元気ですか?**  
明野中央病院 副院長 中村英次郎

院長 木下昭生      副院長 中村英次郎

●主催: 明野中央病院      ●共催: 明野中央病院ふくろうの会  
●後援: 明野地区自治会連合会、明野校区公民館、大分合同新聞社、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、南トキハイランドストーリー  
●お問い合わせ: 明野中央病院 電話097-558-3211 mail:akenohp@fat.coara.or.jp



二人の講演の後はいよいよ健康チェック体験会に入り、400名を超える参加者の方々がそれぞれの体験ブースに列を作り、気になる部分の健康チェックを行いました。「相談コーナー」では、当院医師が参加者からの質問や相談に対応し、「救急蘇生コーナー」では、最新機能を搭載した人形を使った心臓マッサージやAEDの体験も行われました。体脂肪、内臓脂肪測定、肺年齢や血管年齢測定などおなじみの検査の他、超音波検査体験、栄養・カロリー測定、脳年齢測定などのブースもあり、参加者は検査結果を熱心に確認していました。さまざまな健康チェック体験によって、参加者の皆様の健康維持、疾病予防に少しでもお役に立てたのであればうれしく思います。ご参加いただいた皆様と、準備段階からご協力いただいた自治会を始め各方面の方々に感謝申し上げます。



木下院長と中村副院長による講演



救急蘇生コーナーではAEDの取り扱いについて講習



血圧・血糖の測定コーナー



運動のコーナーでは握力や体のバランスなどを測定



体組成計で全身の筋肉量や脂肪量を測りました



肺機能検査コーナーでは肺活量や肺年齢を測定



骨粗鬆症になっていないか骨密度の測定中



相談コーナーでは健康チェックの内容を医師が説明しました



多くの方のご参加を頂きありがとうございました



# 明野クララ元気ツアー

## リウマチ患者さんのスイス旅行

### 明日に希望を

昨年の11月、社団法人日本リウマチ友の会大分県支部の創立40周年記念大会が別府市で執り行われた。私にご縁があり約20年前から医療相談医として参加させてもらっている。記念大会後の懇親会で患者さん方の願いを掲げるボードがあった。そこに書かれていたタイトルが「明日に希望を」である。

数年前にある患者さんが外来に来られたおりにつぶやかれた。「先生、私たちはもう海外旅行なんていけないね。」この患者さんは当時、大分のテレビ放送で流されていたコマーシャルで見たスイスのベルニナ鉄道の風景を見て行ってみたいと思っていたようだ。しかし、現状は関節変形が進んでおり両足関節と足部の変形で長距離の歩行は困難、院内の移動でも車椅子が必要なことがある状況であった。私は無理だと思っていたが「大丈夫ですよ。いつか一緒に行きましょう。」と答えていた。

大学病院を3年前に辞する際、いつか車椅子を押して旅行に行きたがっている患者さんたちと旅行しようと考えていた。昨年の震災を機に「いつかやろうと思うことは今やらない」という気持ちになり、車椅子を押してスイスを旅行する計画を始めた。その患者さんと数人で旅行日程を旅行会社と交渉してもらった。病院のスタッフから看護師・理学療法士のボランティア参加希望者を募り、旅行過程での介助方法を検討した。「明野クララ元気ツアー」、Akeno・Challenge（チャレンジ）して・Limitation（制限）があるなかで・Akaruku（明るく）・Rheumach（リウマチ）でも・Alps（アルプス）へ元気で行こうツアー（Claraはアルプスの少女ハイジに出てくる足に障害のある少女の名前です）と名付けたスイスアルプスを目指す旅である。

9月1日いよいよスイスへの出発である。空港での移動を含め、常時4名の方が車椅子を利用して移動した。チューリヒからスイスに入り、ユングフラウヨッホの展望台、氷河特急、ベルニナ鉄道乗車など公共移動手段を利用し、4台の車椅子を押して旅をした。スイスアルプスの壮大な景色を見たとき、車椅子に乗りながらアルプスの山を散策した時、患者さんたちはとても幸せそうな顔をしていた。我々スタッフも患者さんと長時間の時間を共有し、また観光立国スイスの障害者に対する配慮を直接体験しとても勉強になった。

最近のリウマチ治療薬の進歩や整形外科手術の進歩で、すでに障害のある患者さんでも病勢のコントロールや疼痛軽減ができ、治療や人生に積極的な気持ちを持つことができるようになった。このような方々の夢を叶える手助けをすることも大切なことだと思う。

こつ・かんせつ・リウマチセンター長 藤川 陽祐

## 明野クララ元気ツアーに参加して

Challenge して Limitation があるなかで Akaraku, Rheumach でも Alps へ元気でいこう (Clara)。本当に、この言葉通りの研修でした。

私も朝6時出発、福岡空港～仁川空港～ウィーン～チューリッヒへと……。患者さんと寝食を共にする一週間が始まりました。ホテルの部屋に入るなりベッドがダブル？（う～ん微妙な気持ちでドキドキ）朝早く起きて二人で腕を組んでお散歩。空気が冷たくて心地良かったです。ルツェルンでの散策では、橋に架けられていた綺麗なお花に歓声を上げ、お花に負けない笑顔で記念写真を撮りました。プリエンツからインターラーケンまでクルーズ船で移動、寒い中船上で風に当たり湖の素晴らしい景色にため息をつきながら皆さんとお喋りをしました。ロープウェイ、登山列車、標高 3454 メートルのユングフラウヨッホに登り、氷河特急、ベルニナ特急に乗り（いいちこの歌でも歌いましたか？）、いろいろな Limitation がある中でも果敢に Challenge していました。一週間一緒に参加して楽しかったです。患者さんの行動（食事、排泄、衣服の着脱、歩行、入浴）の勉強ができました。一つ一つに「すみません」「ありがとう」といわれるたびに複雑な気持ちになりました。

出発前より色々準備をしてきましたが、もう少し担当の内訳を細かく決めていたほうが移動時の介助などスムーズに行えたのではないかと思います。しかし、皆さんが無事に帰国されて良かったです。そして、夢や希望を持つことはすごい力が働くんだとも思いました。また、何か違ったかたちでもサポートが必要なときは是非参加したいと思います。

外来 看護師 佐藤 美津子



ユングフラウヨッホ山頂展望台



グリンデルワルド

## 明野クララ元気ツアーに参加して

今回、明野クララ元気ツアーに参加することで、現在不自由なく生活している自分が、患者の立場で考え、体験することで学び、チームワークの大切さ、笑顔でいることの喜びを知ることができました。

旅行に参加する前は、患者さんの名前を覚えられるか、何を話したら良いか、どのくらい介助が必要なのかなど不安がありました。また今回、私にとって初めての海外旅行だったので、日常生活（段差、手すりなど）など想像がつかず不安なことばかりでした。

実際の旅行では、色々な場面で困ることがありました。そんな中、嫌な顔せずお手伝いしてくれる海外スタッフの方、全く知らない人も手伝ってくれるなど、海外の人達の優しさに触れることができました。また、海外の人達だけではなく患者さん同士で助け合い、協力する場面も多くありました。入浴介助では、最初バスタブの高さに戸惑いましたが、少しずつ慣れてきてスムーズに介助できるようになりました。スタッフ同士だけでなく、人と人の繋がりを知ることができました。1週間共に生活していく中で、不安から学びへと変わっていったように思えます。この学びを今後の看護ケアに生かしたいと思います。

今回の旅行で、一週間を通して患者さんとスタッフが旅行初日に比べて、笑顔の数が増えていったのが印象的でした。スイスは、景色が綺麗で空気もおいしく楽しい一週間でした。

お忙しい中、旅行に参加、協力していただいた病院スタッフの方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。

2階病棟 看護師 石田 瞳



ハイジの町 マイエンフェルト



## 明野クララ元気ツアーに参加して

明野クララ元気ツアーに参加することになり、初めは海外旅行にも行った事がない私が、リウマチ患者さんのお世話などできるだろうかと心配でなりません。また、普段の勤務の中で病院という段差などの障害物が少ない空間でしか介助をした事がないのに、海外など行った事も見たこともない場所で怪我をさせてしまったらどうしよう、何かあったとき言葉は通じるのかなど多くの心配がありました。

今までは、リウマチ患者さんは生活を送る上で不自由があり、何かしら他者の介助が必要だと勝手に想像していました。自分の固定観念でリウマチ患者さんの旅行は難しい、ましてや海外なんかあり得ないと思っていました。しかし、旅行を終えて感じたのは、身体が不自由であっても自分なりの生活リズムで他者に不自由と感じさせず皆さん楽しく生活しているということです。皆さん笑顔で楽しく1週間過ごしましたし、今回の旅行も障害物が多い環境の中でも何の不自由さも感じさせる事なく旅行を楽しみました。食事の際のフォークやナイフの使い方など、使い慣れたように自分なりの持ち方で不自由なく食べていました。

実際、海外旅行に行かされている患者さんが多く、今回の旅行で私自身が患者さんから多くのことを学びました。身体が不自由であったり、つらい治療をしている患者さんは、生活に目標や希望を持つことで治療に対する意欲が湧いてくると思います。そして自分の目標や希望を実現することで、ほかの患者さんの治療に対する意欲にも良い影響を与えたいと思います。今までは単に患者さんに対し「頑張ってくださいね」と何度も言ってきました。しかし、今後は単に頑張ってくださいと声をかけるのではなくて、頑張って何がしたいのか、頑張る事で何ができるのか、患者さんと目標を持ってその目標に向けて一緒に努力していきたいと思っています。患者さんと一緒に今回のように大きな目標（海外旅行など）を達成するお手伝いが出来ればうれしいと思います。病院内での看護だけでなく、病院外での看護にも今後関心を持っていきたいと思っています。次回への反省としては、車椅子が必要である患者さんばかりに目が行ってしまい、自立した患者さんや家族にまで配慮が抜けていた気がします。集合時間なども初めの方はルーズであったので時間厳守はしっかり伝えるべきだったと思います。

最後に、初めてのスイス旅行、とても良かったです。景色もすばらしく、迎えてくださったスイスの方々のやさしい対応に癒されました。明野クララ元気ツアーの皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

2階病棟 看護師 久保紀美

## 明野クララ元気ツアーに参加して

リウマチ患者と行くスイス旅行、明野クララ元気ツアー(9/1~9/7)の出発から遡ること1ヶ月、発起人の一人であるHさんが大腿骨の骨折で当院に入院、緊急手術するという非常事態が起きました。手術は無事成功し、翌日からリハビリが始まり、私はそのリハビリ担当者になりました。通常、大腿骨骨折後のリハビリは早くても約1ヶ月かかります。藤川先生を始め医療スタッフは、Hさんがスイスに行ける状態まで回復するのか判断するのは正直困難な状態でした。

しかし、当の本人は自分の夢の実現のため、そして、他のリウマチ患者を勇気づけるためにも「旅行に行くために今何をしなければならないか」とスイスに行くことを前提に、つらいリハビリに弱音を一切吐かず、一生懸命取り組まれていました。実際、旅行代金を手術の数日後に支払われていたことからその強い意志が伺えます。絶対にスイスに行くという強い信念を持ったHさんの回復は予想以上に早く、術後3週間には杖なしでも歩けるようになり、階段や日常生活の動作も一人でできるようになりました。リハビリ中、Hさんは結婚から妊娠・子育て・長期に渡る入院生活に至るまで様々な話をしてくれ、スイスに行くことにどれ程深い意味があるのか私なりに理解することができました。万全を期して出発当日の午前6時に退院してもらい、スタッフは杖やステップ・シャワー用の椅子・車椅子・医療器具・薬剤等必要な道具を最終確認し、無事スイスに共に出発することができました。

私はこのスイス旅行を通して、理学療法士として多くを学んだのと同時に、参加者一人一人が今できる最善を尽くした結果、この一大プロジェクトを成し遂げたことに生涯忘れることのできない感動と感謝の念を深く心に覚えました。皆様、ご苦労様でした。また、次回を期待したいですね。そして何よりもありがとうございました。

理学療法士 紺野 真



ユングフラウヨッホ山頂展望台



インターラーケン

## 明野クララ元気ツアーに参加して

旅行前に踏み台やシャワー椅子の準備や階段・段差昇降可能かなど、いくつかのシュミレーションを行いました。しかし、実際は現地のホテルでシャワー椅子を準備してもらっていたため使用する機会はなく、踏み台も数回使用するのみで、皆さん手すりを把持することが可能であったため、出発前にもっと身体や動作評価をすることで荷物を減らせたのではないかと思います。また、車椅子の方のみに視点が置かれていたため高山病になった人への対応が遅れてしまったので、歩ける人に対しても注意を向けなければならないと反省する面は多々ありました。今回の旅行を通して1番大変だったことは、車椅子の長距離の介助でした。特に、坂道の急勾配や長距離は自分が想像していた以上に体力が必要だということを痛感しました。また、旅行ということで患者さんの生活リズムや個人の背景を知ることができたこと、リフトなど日本には無い福祉機器や人の温かさなど普段の病院での勤務とは違うたくさんの経験をさせていただきました。今回の経験を踏まえてADLならびにIADL・QOLのさらなる拡大に努めていきたいと思います。

理学療法士 岡次 恵



クライネシャイデック

# 「旅行あきらめない」



スイス旅行の説明を受けるリウマチ患者ら(右から2人目が本多さん) 大分市の明野中央病院

## リウマチ患者がスイスへ

県内のリウマチ患者ら12人が9月1日から7日間のスイス旅行に出発する。病気のため旅行をあきらめる患者が多い中、大分市の明野中央病院(木下昭生院長)の協力を受けて初めて実現する。患者らは「医療が進歩している中で、あきらめてはいけな」と思った。夢や目標を持ち治療や人生に積極的になりたい」と話している。

ツプは事前に、病院外の参加患者にも一人一人体調を確認。利用する列車やバスのステップの高さ、道路の舗装状況、各スボットの身障者用トイレの有無、ホテルの浴槽の形状などを詳細に問い合わせ、サポートのコミュニケーションを実施した。

### 大分市の明野中央病院 医師ら企画、同行

リウマチを患う人は、関 医で、現在は同病院こつ・節の痛みや変形などのため かんせつリウマチセンターに長時間の歩行が困難で、段長の藤川陽祐・整形外科医差などがハンディとなる。(51)に「行ってみたいけど医療スタッフを同行する旅 無理ですよね」と話した。行プランもあるが通常の倍 このことがきっかけとなり、地域の医療機関として以上の費用がかかることも あり、重度の患者は海外旅 患者の夢の実現を手助けし行は断念することがほとんど ようと旅行を企画。藤川医師ら病院の医療スタッフ7 人が同行する。

10代で発症した本多紀代子さん(66) 同市は20 登山列車などで山岳や氷河の景観を楽しみ、アルプスの風景に魅了され、主治 スタ 弾ませた。(三上奈穂子)

大分合同新聞



緑のアルプスを登るスイスの登山鉄道。4年前にテレビで見た景色が眼前に。夢がかった」。大分市の本多紀代子さん(66)は思った。

本多さんは関節の変形や痛みで長時間歩くのが難しいリウマチ患者。テレビを見た当時は、その美しさがしばらく頭から離れなかったものの「自分が行くのは無理」と諦めていた。

「行けないよね」。通院先の明野中央病院(大分

## 車椅子で夢のアルプス



ベルニナ鉄道を待つ本多さん(手前右の車椅子の女性)ら。9月5日(明野中央病院提供)

市の医師、藤川陽祐さん(51)に駄目を承知で言ってみた。ところが藤川さんは「行きましょう」。

欧州留学の経験から、藤川さんはスイスで車椅子利用者への配慮が徹底されていることを知って

いた。早速本多さんら患者8人の計画を基に藤川さんらスタッフが移動距離から、列車やホテル内の段差、浴槽の形状まで旅行会社を通して確認。介助方法も話し合った。スタッフの旅費210万円は病院が「研究費」として負担することで、患者、家族、スタッフ計19人の旅行が決まった。

そして9月。スイス・アルプスを、5泊7日で旅した。標高3454㍎、欧州で最も高い位置にある駅に行った日本のリウマチ患者は自分たちが初めてではないかとひそかに自負している。心配した長男には反対されたが、車椅子での散策も楽しめた。現地で出会った米国女性と文通したため英語を習うつもりだ。

「障害者に快適な環境や周囲の配慮が勉強になったし、患者さんの幸せそうな顔を見ることもできた」と藤川さん。6日午後1時から明野中央病院で報告会を開き、旅の収穫を今後にかすこと

【田中理知】



# 「スイスまた行きたい」

明野中央病院

## リウマチ患者ら 思い出話に花咲かす



旅の写真を見て笑顔になる患者やスタッフら

「元気が出た。また行きたい」「障害者に優しい交通機関が日本にもあったら……」今年9月にスイスを旅した明野中央病院（大分市）のリウマチ患者とスタッフ計約20人が、同病院で報告会を開いた。スクリーンに映し出された旅の写真を見ながら思い出話に花を咲かせた。

旅行は5泊7日。医

療スタッフが旅行先の公共機関やホテルの段差を事前調査。旅行中も、関節の痛みや変形で長時間の歩行が難しい患者を入浴介助するなど徹底的にサポートした。

報告会で、大分市の飛河克子さん（67）は「スタッフも現地の方もさりげないサポートが本当にうれしかった」。付き添った理学療法士の紺野真さん（34）は「車椅子の故障にも対処できるよう勉強したい。経験を後輩にも伝えたい」と話した。

スイスの登山鉄道に乗り、夢にまで見た景色を堪能した大分市の本多紀代子さん（66）は、「体調や日程の都合で行けない人もいた。近くて短い日程でも企画できればいい」。付き添った医師の藤川陽祐さん（51）は「何年か一度は旅行に行きましよう」と呼びかけていた。【田中理知】

# リウマチ患者12人 スイス旅行から帰国

## 「体不自由でも できる」実証

県内のリウマチ患者12人が医療スタッフの協力を得ながら、7日間のスイス旅行を実現した。リウマチを患う人は、関節の痛みや変形などのため、段差の上り下りや長時間の歩行などが困難。重度だと旅行をあきらめることがほとんどという。今回の旅行を成功させたことで、医療サポートがあれば体が不自由でも有意義な旅ができることを実証。旅行を通じて、今後の企画につなげるための課題も持ち帰った。

### 万に備え車椅子のメンテ技術を

### 同行医療 スタッフ 報告会で課題も

旅行は大分市の明野中央病院（木下昭生院長）が体調管理にも細心の注意を協力。藤川陽祐医師ら医療スタッフ7人が同行した。帰国後、病院で報告会を開催。参加者は「スタッフのサポートが心強く、安心して旅を楽しめた」「長時子のメンテナンスなど勉強したい」と話す。

事前に、現地で利用する交通医療機関や道路の状況、トイレや浴槽の形状な間の飛行機はやはりつらか強したい」と課題も挙げた患者の本多紀代子さん

「最高の思い出になった。次回も参加したい」藤川医師は「体力面や金銭面から海外旅行は難しい」という患者のために、今後大分近頃の旅行も企画したい」と話す。

（66）は「ずっとあこがれていた景色の中に立つことができた。夢の実現を支えてくれたスタッフに感謝したい」。

（三上奈穂子）



スイスで撮った写真を見ながら、思い出話に花を咲かせるリウマチ患者ら



## 「コラム」

### ともちゃんのこと

ともちゃんは、逝ってしまった。悪性腫瘍がわかってから1年、懸命にがんばったが---

ともちゃんは、明野中央病院に多くのこと、大切なことを教えてくれた人です。ともちゃんは、高校生の時の交通事故により重度の頭部外傷を負い、急性期の治療が一段落し当院へやってきた。そのときは所謂寝たきり状態で意識はなく、気管切開されており呼吸も安定していなかった。大きな褥瘡や四肢の拘縮もあった。脳外科の先生は意識の戻る可能性はない、そう長くないかも---、というコメント。とても16歳の女の子とは思えない姿だった（ともちゃんごめんね）。我々にできることは痰の吸引、おむつ交換などだけだったが、とにかくお母さんが毎日ともちゃんのベットサイドの床に寝泊まりして、手足をさすったり、好きな音楽やラジオを聞かせていたりという超人的看病が続いた。

そして奇跡は起きたのだ。数ヶ月の深い眠りからともちゃんは少し指を動かすことから目覚めた。その後は、木下院長が先頭に立ち、声をかけたり動かしたり、あらゆる刺激的なことをやった。風呂に入れたこともある。大好きなぬいぐるみで話しかけた。ゴーゴーとすごい音をたてて痰を吹き出していた喉の穴を耳鼻科の先生に来てもらって塞いでもらった。すると驚いたことに少ししゃべれるようになった！どンドンおしゃべりになった。股関節の拘縮を取る手術を行い、電動車いすに座れるようになった。その後の回復はめざましく、ワープロが打てるようにまで、そして字が書けるようになった。意識もはっきりとし、自分の意見もはっきり言えるようになった。そして、とうとうご家族の手厚い協力で退院できるようになった。事故から約3年が経過していた。

その後は、在宅でお母さんと元気に明るく生活していた。病院からも訪問看護、訪問リハビリをどんどん行った結果、外出して買い物したり、コンサートを楽しんだり———本当にはじめの状態からは奇跡としか言いようのない回復ぶりだった。病院にもときどき赤い車いすに乗って来てくれた。大きな声で手振りを交えながらスタッフと笑顔で会話していた。ともちゃんお顔がだいぶまるくなったね〜すこしやせようか〜♪ わたしはアイスが大好きなのよ！など。漢字もかなり難しいものまで書けるようになった。いつもお手紙をくれた。やさしい家族に囲まれてともちゃんよかったね。専門家にいわせると頭部CTからは考えられない回復だそう。ともちゃんは、眠っていたときにお母さんの声や看護婦さんの声がだんだんはっきり聞こえてきて目が覚めたと言っていた。人の気持ちや医療の常識を越えることもあるんだね。ともちゃんは一番大切なことを教えてくれましたね。この奇跡とともに体験できた我々病院スタッフはなんと幸せなことだろう。ともちゃんのごことは絶対に忘れないから安心して我々を見守ってくださいね。



## 花日記 ～2階ウッドデッキから～

2階ウッドデッキの花だんにはボランティアの方々が生けた四季折々の花が咲いています。  
傍らの「花日記」には多くの書き込みが・・・

今日、看護師体験の中で、色とりどりの花を植えさせていただきました。これからの成長が楽しみです。リラックスしていただけたらうれしいです。

今日、花を植えました。うすいピンクでした。花は小さいので、もっとていねいにあつかおうと思いました。成長してほしいです。

今日、美女桜というちっちゃくてかわいい花を植えました。とてもかわいかったです。

今日、マリーゴールドという花を植えました。  
黄色くて、可愛い花でした。これからどのように育つか楽しみです。

以上 明野中学校看護師体験にて





たしか2年前になりますが、5月1日～5月6日までひざ痛で入院。藤川先生に治療していただきました。それ以来、腰はとっても悪いのですが、足の痛みは全く有りません。入院時にはたくさんのお花があつて随分といやさされ、また多肉植物(?)になるのですが、ひょうたんの形に次々に増えるのも少しいただきました。今もそれが次々と育っています。今月、藤川先生に肩の治療をしていただきました。終わってお花を眺めさせていただき、あの当時よりプランターの数は少なくなりましたが、美しく咲き、心いやされて帰ります。本当にご苦労様です。90歳になりお花はやめようと、今は短歌を毎週新聞にのせてもらっていますが、やはりお花はやめられず、外に出ると一斉にこちらを向いている様で一寸枯葉取りのつもりが又、肥料をやり植え替えをしたりしては腰が痛いのですがやめることはできない私です。

これからも、診察に来た折にはお花ちゃんに逢いに来ます。自分で動ける？歩ける限りは。お花係さまへ



今日はインフルエンザの予防接種に来ました。久しぶりにこの談話室に来て・・・  
何やら小物が増え、にぎやかでいいですね。  
テラスの桜草、こんなに寒いのにもう花芽がついてますね。  
「冬来たらば春遠からじ」という言葉を思い出しました。(まだお正月も来ていませんが・・・)  
1階のクリスマスツリーもとてもきれいでいいですね。



今日もとても良い天気です。

右の母指と左の足指を手術して3週目です。リハビリをかねて書かせてもらっています。見苦しくてすみません。

5日の日が誕生日だったのですが、病院の方からかわいいお花をいただきました。多分、どこかのプランターに咲いていた花だと思うのですが、皆さんの心くばりにとても感謝しています。花は本当に心を和ませてくれますよね。いつも楽しんで見させてもらっています。これからも頑張ってくださいね。



あけましておめでとうございます。今日は薬をもらいに来ました。

メダカさん、川に戻った(?)んですね。なんと、どじょうもいたとのこと！

寒い日が続き水も冷たいけど、きっと元気で暮らしていると思います。

テラスのお花、きれいですね。いつも車を裏口にとめるのですが、きっと玄関もきれいなんだと思います。帰りに見て帰りますね。

今 うちの庭にはレンゲ種のバラがきれいに(かわいらしく)咲いています。

バラの中でもレンゲ種は手入れが楽なのかうちの家でも咲いてくれるので好きです。お花の鉢(小さいの)を持って来ようかとも思ったのですが、最近テラスがすっきりしちゃったんで悪いかと思って・・・。

今年はこのノートが書き込みでビッシリになるくらい皆さんが書いてくれるといいですね。「花日記」ですが何でも書いていいですよ。多分・・・

※人を不快にするような事はダメですよー。

良い天気です。お風呂にも入りました。ひなたぼっこしながら、お話とお花を見て楽しかったです。もうすぐ桜が咲きますね。楽しみです。

3階 患者代理

## 今昔写真館

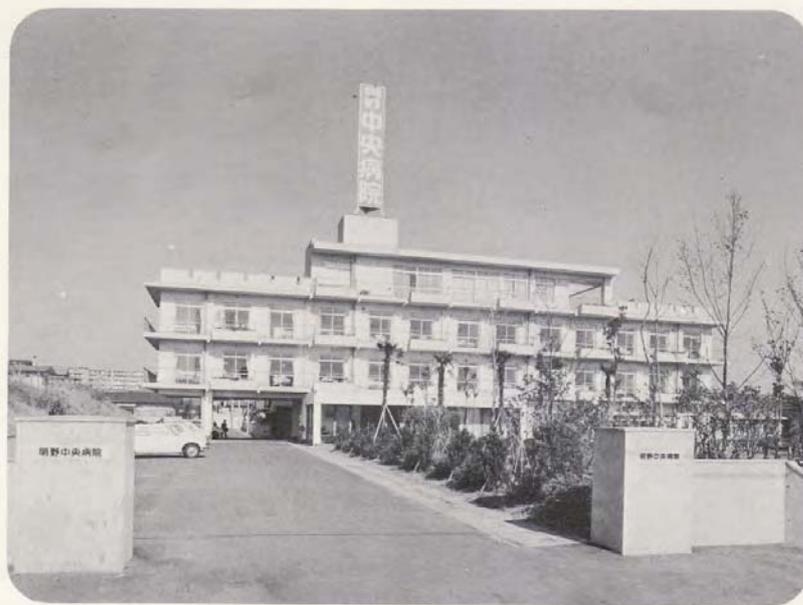
### 明野中央病院 紹介のページ

明野中央病院 今昔写真

#### 病院紹介

大分市の病院を紹介した古い本（雑誌？）からの1ページ。該当のページのみ保管されておりどのような本だったかはわかりませんが、当時の病院の規模や職員数、診療科目など現在とは違う点が多く見られます。

病院は増改築もありましたが、本館部分や門の部分は現在も当時と同じままの姿を写真で見ることができます。



### 明野中央病院

設 立 昭和49年1月  
所 在 地 大分市東明野2317の4  
従 業 員 数 40名  
診 療 科 目 内科、小児科、整形外科、外科、  
脳神経外科  
病 床 数 65床

#### 平成 25 年現在

設 立	昭和 49 年 1 月
所 在 地	大分市明野東 2 丁目 7 番 3 3 号
従 業 員 数	141 名
診 療 科 目	内科・消化器内科・整形外科・形成外科・リウマチ科・リハビリテーション科・麻酔科
病 床 数	75 床



## 庭にあった医局

明野中央病院 今昔写真

平成 9 年当時



### 病院の医局

1997 年頃は病院には緑豊かな庭があり、医師達の詰め所でもある医局もそこにありました。現在は新館増築に伴い取り壊され、医局は別の場所へ移動しましたが、患者さんだけでなく、診察や手術など多忙な医師達の心も緑豊かな庭が癒していたのではないかと思います。

平成 25 年現在

